

9月定例教育委員会議事録

- 1 日 時 平成25年9月24日(火) 午前9時30分から午前10時45分
- 2 場 所 宗像市役所本館3階・301会議室
- 3 出席委員 委員長 井上裕之
委員 川上美子
委員 平田良枝
委員 中岡政剛
教育長 久芳昭文
- 4 その他の出席者 教育部長高橋勇次、市民協働・環境部長福崎常喜、子ども部長柴田祐治、教育部理事後藤正弘、教育政策課長岡田光晴、教育政策課指導主事羽田野崇、教育政策課指導主事西島潔、教育政策課指導主事正路澄代、学校管理課長占部晃、子ども育成課長中野万由美、子ども育成課社会教育主事久保謙司、図書課長長谷川慎、郷土文化交流課長清水比呂之、世界遺産登録推進室長岩佐芳弘、コミュニティ・市民協働課長古川博章、教育政策課政策係長許斐知加、教育政策課企画主査山本幸江、教育政策課教育連携コーディネーター田中雅子、学校管理課給食係主任管理栄養士柴田道世

※傍聴 なし

- 5 前回(8/26定例)議事録の承認(資料1)《承認》

6 議案

- ① 議案第24号 宗像市郷土文化学習交流館協議会委員の選任(案)について(資料2)

《承認》

【久芳教育長】資料2参照。議事録なし。(▲15秒)

【郷土文化交流課長】資料2参照。議事録なし。(▲58秒)

【井上委員長】今、ご説明していただきましたように、玄海地区コミュニティ運営協議会会長の交代に伴って、委員を選任されたということですが、何かご意見ご質問がございますか。他になければ、議案第24号につきまして、承認いただけますか。

【各委員】はい。

7 報告事項

- ① 行政報告(資料3)

【久芳教育長】8月26日の教育委員会以降の主だった内容について、ご報告をさせていただきます。9月2日に定例市議会が始まり、9月4日から3日間、一般質問が行われました。教育委員会には、3人の議員から質問がございました。まず、ふくおか市民政治ネットワークの高原議員からは、特別支援教育の就学相談に関わる問題や担当教員の活用の問題、中学校における特別支援教育の課題について、それから、英語教育の充実についてのご質問がありました。2日目は、とびうおクラブの北崎議員から土曜日授業のあり方、春の運動会の見直し、特別支援教育支援員の活用、中学校の部活動に関する課題について、また、今、整備中であり、玄海中学校の運動場の状況についてのご質問があつております。それから3日目は、日本共産党の植木議員から、公共

施設のトイレの改修について、特に学校のトイレの整備についてご質問がございました。9月17日は、予算決算委員会があり、教育委員会への質疑があつております。その主な内容は、今回の補正予算の内容、ICT教育、教員の研修、学校での食育、アレルギー対策、小中一貫教育、通学路の安全確保等でございます。また、9月20日に管内の教育長会議がございまして、本年度の学力・学習状況調査の福岡県の調査結果の概要について報告がありました。福岡県は、小学校では、国語Aと算数Bで全国の平均正答率を上回っているけれども、算数Aは全国と同じで、国語Bは全国平均を下回っているということでございました。全体的に、ほぼ全国平均と同じ程度だということです。それから中学校は、すべての教科区分で全国を下回っております。昨年と比較すると、数学A、Bは全国平均との差が若干縮小したけれども、国語A、Bは逆に拡大しているということでした。地区別の比較では、各教育事務所と政令市は福岡市と北九州市を併せた平均正答率の報告があつたのですけれども、福岡教育事務所管内は、すべての教科が上位に位置するということで、お礼の言葉もありました。またこれから分析をして、課題に対する対応をしていきたいということでございました。

② 後援報告(資料4) 資料参照、議事録なし。

③ 平成25年度全国学力・学習状況調査結果について(資料5)

【羽田野指導主事】 資料5参照。議事録なし。(▲1分55秒)

【井上委員長】 結果を示していただきました。これから、細かい分析もされると思うのですが、今の時点で、成果がでた理由が分かればお聞かせ願えますか。

【羽田野指導主事】 まず、各学校の取り組みが挙げられます。内容としては、補充学習の徹底、家庭学習の充実、そして調査問題の活用。この3つが挙げられるかと思えます。それに加えて、保護者による採点であるとか、地域コミュニティによる補充学習、いろいろな手立てを取っていただいているところがございます。そのおかげもあって、各学校、それから宗像市全体で、無回答率がかなり解消されております。各学校、地域、家庭を巻き込んだ取り組みが、成果に結びついているものだと考えております。

【井上委員長】 県の学力実態調査において、小学校は、理科が若干低いようですが、いかがですか。

【羽田野指導主事】 各学校、小学校は特に、まずは、国語、算数を重点的に取り組んでいただいているところがございます。今回、理科は残念ながら県平均を下回る結果となっておりますが、結果を見て、国語、算数で自信を持っているところがございます。いろいろな校長先生方のお話からも、来年度はぜひ、社会と理科にも、これまでの取り組みを広げていきたいとお聞きしているところです。

【井上委員長】 理科も去年はプラスだったけれど、今回はマイナスという、取り組んではいるのだけれども、まだ数字的には出てこないというところもあるのでしょうか。

【後藤理事】 一番大きな変化の原因は、家庭も補習も大事なだけれども、教員一人ひとりの意識が変わってきたということが挙げられます。小学校のB問題でかなり高くなっていますから、特に、考える授業が充実してきたということがいえます。教員の意識と指導力量が相まって高まったということが、大きいと思います。理科は、例えば、自由ヶ丘南小学校のように研究している学校は、県平均より9ポイント近く高い結果が出ています。

【井上委員長】 個別で見ると高いところもあるんですね。

【後藤理事】 はい。研究している学校は高くなる。どうしても理科教育を国語算数に追われて、ないがしろにしてしまう傾向があるのではないかなと思います。社会科も一時期、下がっていました。それを意識付ける、教育委員会も働きかけをして、意識をしっかりとってもらうというのが原点にあると思います。意識化を図り教育委員会としてもこれからもう少し、てこ入れをしていかなければいけないと思います。

【井上委員長】学力テストの結果から、弱点をどういふふうにかバーしていくかを一番大切にしたい。意識化もその一つですね。

【後藤理事】基本的に、小学校のときに良い学年は、やはり中3でも良いという傾向があるようでございますので、さらに伸ばしていきたいと思っております。

【中岡委員】点数だけでなく、質問紙の回答の傾向で自尊感情など何かあれば教えていただけますか。

【羽田野指導主事】ご指摘のとおり、一番宗像市で気になるところは、小学校、中学校どちらとも、「自分に良いところがありますか」という設問に対して、「あまり当てはまらない」、「当てはまらない」と回答する子どもが多いということが挙げられます。また、「授業のなかで話し合う場面がありますか」という設問で、「当てはまる」との回答が増えてきております。これは先生方のご努力が、かたちになって現れている結果ではないかと思っております。それから、家庭との関係でいうと、よく言われるような「早寝・早起き・朝ごはん」であるとか、家で学校のことについてよく話をしているご家庭は、比較的点数も高いという、相関関係が成り立っています。

【久芳教育長】今回の調査でも言えるのですけれども、学校間格差というのがありまして、それは地域の特色などが影響していると思われまます。しかしながら、いずれのところも、数字的なことでいえば、非常に良い結果を出していただいていると思っております。それから、今回のこの学力状況調査の結果につきましては、今回の教育委員会の報告後に、市民の方々にもわかりやすいかたちで、広報をしていきたいと思っております。数字だけがすべてではないのですが、こういった結果は、市民の方も気になるところではないかと思っております。

④ 学校給食食物アレルギー対応児童生徒数推移について(資料6)

【学校管理課長】平成21年度から平成25年度までの、5年間の食物アレルギー対応児童生徒数の推移を表しています。小学校、中学校ともに毎年増加傾向にあるということが読み取れます。小中学校の総計は、平成21年度は85人でしたが、今年度は150人になっておりまして、1.76倍の増加となっております。医師から食物アレルギーがあるとされている人数は、小中学校の総計で156人でございます。これと対比してもらいたいのが、学校給食におけるアレルギー対応人数で、合計150人となっております。この150人に対しては、除去食を基本とした対応を行っております。先程の医師から食物アレルギーがあるとされている人数156人から、学校給食におけるアレルギー対応人数、除去食150人を差し引いた、6人の児童生徒につきましては、毎日弁当を持参してもらっておりまして、給食を停止してもらっております。最後に、エピペン処方人数を掲載しております。このエピペンとは、アナフィラキシーショックなどを起こした場合に備えて、医師が事前に処方するアドレナリン自己注射薬のことでございますが、小学校で2人、中学校で3人、合計5人の児童生徒が処方されております。エピペンの使用に関する研修済みの掲載がありますが、この研修は、宗像地区消防本部が、エピペンの使用に関する研修会を希望する学校に対して、実施しているものでございます。エピペン処方児童生徒が在籍する4校。それから、在籍しない学校についても3校が、本年度既に、この研修を受講しております。その他議事録なし(▲1分32秒)

【井上委員長】今、ご説明していただきましたけれども、この食物アレルギー関係で、何かご意見ご質問はございますか。

【川上委員】今のエピペンの研修会はどなたが対象になるのですか。

【学校管理課長】それぞれの学校で違うとは思いますが、アレルギー対応マニュアルを平成23年度から各学校統一で実施しておりまして、そのなかに、校内体制ということで、食物アレルギー対応検討委員会を各学校に作っていただいております。そのメンバーが主な研修対象ですが、校長、教頭、学級担任、養護教諭、給食主任、栄養教諭等でございます。

【正路指導主事】教員全員で、校内研修として各学校は受けているはずで、対象の子どもが1人でもいる場

合は、誰でも対応できるようにということで実施しています。

【井上委員長】では、複数の先生方が研修を受けているのですね。

【正路指導主事】はい。参加できる方は、全員。入学や転入時にわかった時点で、研修を受けたりしています。

【井上委員長】担当者を決めて、誰か1人ということではないわけですね。

【川上委員】実質的に、きちんと対応できる体制なのかをお聞きしたくて質問しました。

【中教課コーディネーター】中学校では、入学前に小学校から、アレルギーを持っている子のデータがきます。それを基に事前に保護者と会います。エピペン使用者の確認がとれましたら、4月当初に消防署に来ていただいて、全職員で研修を受けます。その子がどこで発作を起こすかわからないので、全職員がエピペンを使えるようにしています。

【井上委員長】各学校、研修を受け、全員体制で対応しているということですね。

【中教課コーディネーター】学校管理課から指導を受けていますので、特に、エピペン使用者の場合は、運んでくる途中で、その蒸気をかぶっただけでもアレルギーが出る場合もあり、とても危険ですので、事前に研修を受けます。

【川上委員】安心いたしました。もう1点質問ですが、アレルギーの生徒が、上昇傾向にあります。多分、児童生徒数は減る傾向にあると思うので、年々、比率が若干ずつではありますが、上がっていると思います。今のマニュアル対応だと、入学時、小学校入学前と中学校入学前に、書類を提出するようになってきていると思うのですが、この増加がその時点だけでスクリーニングできたものなのか、途中で、入学当初にはアレルギーはなかったのですが、在校中に段々アレルギー反応が、出るようになったとかいうケースには、どのように対応するようにされていますか。マニュアルの書類は、2回だけだったと思うのですが。

【学校管理課長】お示しているのは、「食に関する指導」等に関する状況調査(平成25年8月実施)ということで、8月に回答したものでございます。

【柴田主任管理栄養士】アレルギー児童生徒の把握に関しましては、小中学校の入学時と学年が変わる度に確認をしておりますので、毎年度の確認ということになっております。また、成長に伴って発症をするケースというのもございまして、「新規発症時」という様式も備えておりますので、何かありましたらその時点で、年度変わりでなくても、新しく対応を依頼できるようにさせていただいております。

【川上委員】それを伺って、安心できました。

⑤ 学校給食費の納入状況について(資料7)

【学校管理課長】学校給食費の納入状況についてでございます。現年で78世帯、過年分を合わせますと127世帯となっております。平成24年度の収納率がございまして、現年分が99.6%、滞納分が39.2%、合計で98.6%でございます。公平性の確保と食材の品質確保のために、収納率の向上に常日頃努力しております。その結果が、収納率の向上につながっていると思います。この主な要因は、次の3点です。1点目は、平成24年1月に作成しました学校給食費未納対応マニュアルによりまして、全小中学校の取り組みを統一したことが挙げられます。2点目は、23年度までは、小中学校の先生と市の職員が手を組んで、夜間の徴収業務にあたっておりましたが、昨年度24年度からは、市職員2人による夜間徴収業務に重点を置きました。これが功を奏して、収入済額が増えております。3点目は、平成23年度法律改正によって、滞納保護者の同意を得られれば、児童手当から学校給食費の天引きが可能になったことが挙げられます。これも大きな要因の1つと考えています。児童手当から学校給食費への特別徴収状況は、平成24年度3回分の合計額が、242万3,308円となっておりまして、この徴収額が収納率を引き上げた要因だと考えています。その他議事録なし(▲57秒)

【井上委員長】やはり、児童手当から徴収できるようになったということが大きいですね。

【学校管理課長】 はい。

【井上委員長】 24年度から、市の職員2名で滞納家庭に個別訪問していることが効果の出ている要因ということでしたよね。詳しく教えていただけますか。

【学校管理課長】 23年度までは、学校管理課の係長と校長先生か教頭先生、または担任の先生とが2人で訪問していたのですが、なかなか学校と行政での調整が付きづらく、さらに保護者も不在の場合がございました。昨年度からは、学校管理課の係長と一般職の職員と2人で回っておりまして、回数も確実に、2倍とか3倍とか、一昨年より多く訪問しております。訪問の際は、児童手当の同意書を持参します。児童手当は年に3回、4ヶ月分がまとめ支給されるので、そのときに、子どもさんが2人とか3人おられれば、10万円を超える家庭もございますので、その一部を給食費に充ててもらおうものです。

【井上委員長】 同意書を持参するんですね。自動的に学校給食費は、口座から天引きされるのではないのですか。

【学校管理課長】 普通は、学校給食費は口座引き落としですけれども、口座に残金がなくて引き落としできないことが積もり積もって、滞納額が増えてくるのですけれども、滞納が3ヶ月以上の家庭は、訪問するようにしています。そのときに、現年の方は、必ず小中学生がおられ、児童手当が支給されている保護者の方が多いですので、同意書を持参し、支給日の2ヶ月前くらいから重点的に訪問し、払える額を記載してもらい、同意書にサインをしてもらっています。金額は、決まっております。

【井上委員長】 そうですか、わかりました。

【教育部長】 学校管理課の職員、係長と担当者2名で、夜ずっと詰めておりました。児童手当から充当ということで、家庭訪問をして、保護者の方をお願いをするということが功を奏している。もう1つは、悪質なケースについては、23年度1件、今年1件、提訴させていただいております。これを提示すれば、和解へという話が出てまいりますので、やはりこちらも裁判を辞さない姿勢を示しながら、公的なお金は、きちんと払う必要があるよというPRをしていきたいと考えております。とにかく、職員は頑張っております。

【井上委員長】 大変ですよ。宗像市は、かなり徹底してやっているという印象が、非常に強いです。

⑥ 9月7日土曜日授業「総合防災訓練」について(当日配布資料)

【教育政策課長】 資料1、2ページにおきましては、各小中学校からの報告事項でございます。この表の見方ですけれども、左側から学校名、その次が防災訓練に出席した児童生徒数です。実施内容欄は、9月7日当日の防災訓練の内容、児童生徒の引渡しの欄には、各小学校において、保護者の出迎えの有無で、「○」が引渡された、「×」がされなかったです。その次の欄が実施後の成果を書いております。また課題の欄には、小中学校ごとの今後の課題を記載しております。この課題につきましては、当然今後、学校を中心に対応に努めてまいります。3ページは、宗像市として、総合防災訓練における訓練参加者数等一覧でございます。9月19日現在の時点で作成しております。当日は、訓練参加者数は、延べ12,634人ということで、避難場所には8,843人が来られたということです。各地区住民訓練参加者状況として、3,791人でございますけれども、この内訳が4ページでございます。次の5ページでございますけれども、翌日9月8日の朝日新聞の朝刊に「1万3,000人の防災訓練小中生は全員」と記事が掲載されております。下の記事は、日の里地区のコミュニティのホームページでの掲載分です。最後の6ページでございますけれども、当日の自由ヶ丘南小学校の訓練状況の写真ですのでご覧ください。

それからもう1点、市やコミュニティ関係の課題等については、9月末までに、各コミュニティ等から上がってくるということで、集約を9月末でされるということです。

【井上委員長】 そうですか。では、来月の定例の委員会で報告できますか。

【教育政策課長】 まとまり次第、教育委員会に報告いたします。

【中岡委員】 私は赤間地区の自治会の関係で実際に、区の方たちに避難訓練に参加をしていただきました。赤間小学校、それから城山中学校、赤間地区コミュニティセンターへの避難ということで行いました。ただ、そのなかで、中学校も小学校もですが、児童生徒も体育館、地域の避難者も体育館ということで、ある程度の調整というのを今後していけないといけないと感じました。今回は、地域については、必ず行うものではなかったのですが、避難訓練をしていない区もあったのですが、必須となれば避難者が増え、もっと混雑していくのではなにかと思います。赤間地区の場合ですけれども、市と学校との打ち合わせは、調整はできていましたが、学校と地域やコミュニティとの打ち合わせ等ができていないところもあったので、今後は、地域との打合せも必要だと感じました。また、保護者が避難をするときに、引渡しはどのようになるのか、細かい部分ですが、実際には大事なところなので、考えていただければと思います。

【井上委員長】 今回の経験を踏まえて、次回へ向けて、いろいろな問題点や課題等がありますから、協議があるのではないかと思いますがいかがでしょうか。

【教育部長】 ご指摘の点は、一番心配しているところなのですが、地域も学校も動いたときにどうなるのかは、今年初めての試みなので、まずは訓練を何回か繰り返し、お互いが共有していくことが一番大事なところだろうと思います。8月末になって、学校と地域が調整できているのか、急遽、校長先生等にお集まりいただいて、最終の打ち合わせを実施いたしました。中岡委員が言われたように、地域は、まずサイレンが鳴ってどう動くべきか、まだ市も不確定な要素がございましたので、訓練を重ねて、今回の反省点を改善していきたいと思います。それと、引渡しを実施した学校から、「本番のときには、まだこれ以上の時間がかかるよね」という声を聞きました。これをいかにスムーズに訓練しておくかというのが重要だと今回感じたところでございます。

【井上委員長】 第1回目ですから、要望等を踏まえて、次に進めてもらいたいと思います。

⑦ 9月学校の日について(資料8)

【久芳教育長】 私は、今回少し欲張りまして、玄海小中学校、河東西小学校、河東小学校、赤間小学校、南郷小学校の6校を大急ぎで見えてまいりました。玄海小中学校につきましては、併設型になりましたので、朝の時間帯に行って参りました。例年のことですが、この時期は早朝から菊の栽培をしまして、地域の方々の協力を得ながら、子どもたちは1番に菊のところに行って、水かけや手入れをしておりました。また、中学生が小学生を出迎え、併設型の小中一貫教育ならではの取り組みがなされておりましたので、双方ともにいい影響があればよいと感じました。河東西小学校では、宗像高校が中高一貫校を進めておりますけれども、中学校にICT機器を導入したいということで、電子黒板を使った授業の参観に来ておられました。中高一貫校が実現しますと、県立中学校と市内の学校との相互連携がうまくできればいいなあと少し期待をいたしております。それから河東小学校では、宗像警察署から警察官3名の方がお見えになって、実際に知らない人から声をかけられたらどうするかといった防犯教育をやっていただいております、子どもたちにとっては、いい機会になったのではないかと思います。赤間小学校は、9月7日の総合防災訓練について、950名近くの子どものいるマンモス校だったので、少し気になりまして校長先生にお聞きしました。先程の中岡委員のお話のように、実際に市民が避難してきますと、体育館は児童でいっぱいになる状況なので、どういうふうに学校として対応するかを考えないといけないというお話があり、マンモス校での課題が見えてきたと思います。それから最後に南郷小学校に行ってみました。ここはちょうど大規模改修が夏休み行われましたので、その様子を少し見させていただきましたけれど、非常に明るい教室で、子どもたちも喜んでる状況でした。

【川上委員】私は、自由ヶ丘中学校と自由ヶ丘南小学校、自由ヶ丘小学校の自由ヶ丘地区の3校を回らせていただきました。まず、子どもたちの様子ですけれども、自由ヶ丘中学校の3年生は、とても素晴らしかったです。夏休み明けですが、非常に落ち着いていて、授業に集中していました。理科の授業で、交流活動もする授業だったのですが、そのスタイルが、座席を合わせたりせず自由に教え合うかたちを取られていていました。まず先生が、理解できている子の名前を「〇〇先生が誕生しました」と挙げ、次のところで、わからない子は、その子たちに質問しに行きなさいと促し、教え合う、それが全然ざわついた感じもなく、本当にわからない子は、知りたくて教えてもらいに行っていましたし、教える子は、わかりやすく教えようという努力が見えて、こういう活動も素晴らしいなと思いました。それから自由ヶ丘南小学校では、学級会活動が行われていました。ずいぶん前から取り組まれていたので、特に5、6年生は、話し合いのテーマから反対意見、賛成意見をとてもスムーズに発表し、黒板の意見の板書も素晴らしくて、小学生でもここまできちんと、わかりやすく、色分けもして、板書できるものなのだなと感動いたしました。それから、自由ヶ丘小学校では、校長先生とお話しをして、今後の自由ヶ丘地区で小中一貫教育を進めるにあたっての課題をお伺いしました。支援を要する子が非常に多く、いかにきめ細かく対応し、中学校につなげていくかということ先生もいろいろと考えておられ、学校間をつなぐ兼務教員の必要性を感じました。

【平田委員】私は中央中学校と南郷小学校、日の里西小学校と日の里中学校に行かせていただきました。中央中学校は2年生がワクワクWORKで不在のため、全体的にとっても静かで、先生の声が響いていました。とても落ち着いた授業風景で、1年生は英語と理科の実験を楽しそうに学習していて、とてもいいなと思いました。南郷小学校は、先程教育長がおっしゃられたように学校がきれいになって、1年生が喜んで、廊下で寝転がったりしていることや、学力調査の結果について、満足そうな言葉が校長先生から出ていました。また、皇太子様が前回、宗像市に見えたときに、子どもたちとの交流の様子がテレビに映ったので、子どものおじいちゃん、おばあちゃんが大変喜んでおられた話も伺いました。7日に行った防災訓練では、引渡しがスムーズにいきましたとの報告もありました。子どもたちは、とても学習規律が良くて、大変落ち着いた授業風景で「学校がきれいだと、学力も伸びるのでしょね」とお話ししました。ワクワクWORKの子どもたちが、中央中学校から来ていましたけれども、児童の横について、しっかりと教えてあげたり、丸付けをしたりとか、とても落ち着いて、先生らしい様子でした。話を聞いたら、「とても楽しい」と言っていました。日の里西小学校は、本当に子どもたちが元気のいいあいさつをしてくれて、とても気持ちが良かったです。教頭先生は、「学力調査頑張りました」と真っ先におっしゃられて、「理科が少し課題で、また頑張ります」とおっしゃっていました。3年生が、先生方をつかまえて質問をする場面があったのですが、とても言葉づかいが良くて、礼儀正しいなあと感じました。4年生、5年生は、電子黒板を使っていました。5年生の社会の授業では、資料を見せる際に、電子黒板のよさを生かした使われ方をしているなあと感じましたし、全員が机を電子黒板の方へ向け、よく見えて良いなと思いました。5名のワクワクWORKの子どもたちが、「先生」と小学生から呼ばれ、得意そうに相手をしておりました。日の里中学校では、とても授業風景が落ち着いていました。校長先生は、生徒の心が育ってきたので、授業も落ち着いてきていますと話されました。とても子どもたちも、いいあいさつをしてくれました。

【中岡委員】9月10日なのですが、所用で3校だけしか回っておりません。玄海中学校と玄海小学校、河東中学校に参りました。玄海中学校は、2年生がワクワクWORKで不在でした。3年生ですが、学級活動で、進路学習を各学級で実施をしておりました。担任の先生が、自分のこれまでの体験を、織り交ぜながら話をされていて、非常に真剣に耳を傾けているという様子が見られました。ただ数人、少し姿勢が崩れて、関心も薄い様子が見られたのが、少し気になりました。1年生ですが、1クラスでしたので、学級でエンジョイスクール事前指導が行われていました。全員がしっかりと前を向いて、先生の話に聞き入り、集中した姿が見られました。玄海小学校は、50周年の記念事業が今年あり、発表もあるということで、いろいろと立て込んではいりますが、小中一貫教

育の発表も、非常に順調に、しっかりとした取り組みを進めていますということを校長先生から力強くお話を聞かせていただきました。河東中学校ですが、まず、校長先生と話をいたしました。この前の学校訪問のなかでも出ましたが、学力テストの結果について、非常に大きな課題と捉えているということでした。特に、平成21年度から23年度と比較して、24年度、25年度と県平均よりも各科目ともに、学力低下傾向がみえるという厳しい状況があり、特に、3年生が伸びていない。学力向上の取り組みとともに、進路指導の細やかな取り組みを進めていかないといけないというお話がありました。ただ、2年生は、1年生のときよりも学力が上昇傾向にあり、学年が組織として、日々の地道な取り組みをしている効果が出ているのではないかとということでした。その後、授業を見せていただきましたが、1年生は本当に集中して授業が進められているなどと思いました。3年生は、私語が見られる状況もあり、集中力に欠ける生徒が見受けられる授業状況でございました。

【井上委員長】 私は、城山中学校と赤間小学校の2校を訪問いたしました。城山中学校では、1年生が宿泊体験学習、2年生がワクワクWORKで、3年生のみが授業を受けておりました。校長先生は、1年生の引率で留守でしたので、教頭先生と話をさせてもらいました。城山中校区は、3つのコミセンが大変協力的であるということで、小中一貫教育がスムーズにできていて、非常に助かっているというお話をされました。それから、3年生の授業を参観しましたが、私の目から見て、大変好感の持てる授業風景という印象を受けました。赤間小学校ですが、今年度、新任校長の新海校長に案内してもらいまして、授業を見て参りました。特に、T1、T2の授業ですが、校長先生の話では、極力T2の先生に活用を増やすということで、それを基本的に置いて、授業をしてもらっているというお話も伺いました。また、赤間小学校は、講師の先生がたくさんおられ、優秀な先生が非常に多いので、校長としては、非常に助かっているというお話をお伺いしました。

⑧ 小中一貫教育について(資料9)

【西島指導主事】 夏休みに行いました視察及び発表について、今後について報告させていただきます。夏休みに、熊本県玉名市校長会の視察がありました。表の中の日程、7月8日月曜日となっておりますが、29日に訂正をお願いします。7月29日に玉名市の校長会の視察がございました。合計21名の校長先生方がお見えになりました。玉名市はこれから、小中一貫教育に着手しているところなのですが、統廃合される学校もありまして、非常に熱心に視察されました。質問としましては、会議の設定方法、兼務教員について、それから部会の進め方など、具体的な方法についてでした。下方に感想を載せております。それから、8月6日、8月29日、八女市立花中学校区、中間市中間中学校区の合同研修会に行きまして、宗像市の小中一貫教育について発表をしてきました。現場の先生方、小学校、中学校の先生方が7、80名ずついらっしゃったのですが、具体的な行事の進め方とか、授業規律はどのようにして作っていったのかとか、兼務教員にもすごく興味を持たれて、兼務教員が授業をした場合、評価はどのようにするのかとか、そういった質問を受け、すごく勉強になったという声を聞かせていただきました。

続きまして、裏面をご覧ください。玄海中学校区の研究発表会の第2次ご案内です。正式な依頼は、また後日、お届けすることになります。ICTを活用した授業の発表もありますので、どうぞ参観、よろしく願いいたします。その他議事録なし(▲1分11秒)

【井上委員長】 玄海中学校区の研究発表会について、どのように参観するとよいでしょうか。両方を一緒には見ることができませんよね。

【西島指導主事】 その件に関しましては、打ち合わせをさせていただきたいと思います。

【井上委員長】 そうですね。別途協議をお願いします。

⑨ 福岡教育大学との連携事業について(資料10)

【中核部コーディネーター】 33ページの資料10をご覧ください。今年の宗像市教育センター・福津市教育研究所・福岡教育大学との共催事業「経営力・授業力・組織力アップ！ 選べる夏期講座」が8月23日に行われました。始めて5年目になりますが、年々受講する先生方が増えている状況です。6講座に分かれて、8月23日の午前中、あるいは午後の半日ずつの研修でしたが、どの講座も熱気あふれる、意欲十分の講座になっておりました。指導主事の先生方はもちろんのこと、現場の先生方の実践発表がいきいきとなされ、とても興味深かったです。それを大学の先生方が、上手に現場の授業と理論をつなげる講義をされていました。子どもたちの学力向上や、教師の指導力アップ、それから経営力アップということにそれぞれ視点を置いて、まとめていくという講座の内容になっておりました。参加した先生方、受講者のアンケート結果を「○」で載せています。先生方の思いは、「来たときは少し重荷であったけれども、半日参加するうちに子どもたちの顔が浮かんで、早く子どもたちに会いたいと思った」とか、「夏休み明けの授業をどうやるか、あと1週間かけて考えて、始業式に臨みたい」とかいうものが多く、夏休み明けも、意欲的に始業式に向かっていこうという気持ちになって、講座を修了されている方が多く、よかったなど感じました。3者が協力して作り上げているということが色濃く出ていて、いろいろなところに発信している事業ではないかということを感じました。

【井上委員長】 毎回、報告をしていただきまして、連携事業の様子が非常に私たちもよく理解できました。講座が6つあるのですよね。募集はどのように行っているのでしょうか。

【中核部コーディネーター】 各学校に募集をかけ、正路指導主事が取りまとめ、定員に余裕があるところはもう一度、学校に案内し、掘り起こしをしています。

⑩ 宗像市民図書館雑誌スポンサー報告(資料11)

【図書課長】 前月の報告以降、No. 33の snacks くるくるから、No. 42の自治労宗像市職員労働組合までということで、概算金額にして、51,410円です。今回までに獲得した年間概算金の合計額は、41万5,904円になっております。9月になり、事業開始から半年経ちましたので、取り組み状況を報告させていただきます。今回この雑誌購入にかかる25年度の当初予算につきましては、268万2,000円でございました。これに対して、スポンサー制度により現在41万5,904円を獲得し、予算ベースで15.5%に達しております。雑誌につきましては、全部で226冊ございますが、25年度につきましては、そのうち、雑誌冊数ベースでいきますと、約70冊ほどを獲得しており、30%を占めております。これから次年度の作業にとりかかりたいと考え、この制度の検討、来年度の更新のご依頼に少し力を入れたいと考えています。この獲得しました金額につきましては、今年は、離島の図書充実ということで、大島の雑誌を充実させる方向で検討しています。またきちんとした形ができましたら、この場で報告をさせていただきたいと考えています。

【井上委員長】 冊数でみると30%を占めているということですね。来年度も継続発展をしていただきたいと思います。

⑪ その他

・第21回宗像市少年少女海外派遣研修使節団研修について

【人保社会教育指導主事】 宗像市少年少女海外派遣研修使節団に関し、口頭でご報告いたします。去る8月22日から29日の8日間の、ニュージーランドでの本研修が無事終了しました。飛行機で香港まで約3時間半、香港からニュージーランドのオークランドまで約11時間の、片道約15時間を飛行機で移動する長旅でした。ニュージーランドでは、異国のさらに言葉の違う家庭のなかに、ほとんどの子どもが1名、2組だけが2名で、5泊6日のホームステイ体験を行いました。途中2名が、ホームシックになることもありましたが、適宜、現地の学校の先生方や、ホーム

ステイ先の保護者等と協議して、なんとか全員が、無事に研修を終了しました。ニュージーランドの訪問校のマウントロスキルインターメディアイトスクールでは、歓迎式典やピクニック、バーベキューランチなど大変な歓迎を受け、帰国する際には、泣きながらホームバディと別れる団員の姿もありました。先週9月15日には、研修報告会を開催し、団員1人1人から現地での体験談を発表してもらいました。そのなかで、「日本と文化の違いを感じて、海外にまた行きたい」、あるいは、海外に興味を持ったという団員や、「ニュージーランドの人たちの温かさや優しさを感じた」、「笑顔やコミュニケーションを取ろうとすることの大切さがわかった」、「英語が通じ、英語が好きになった」、「もっと英語を勉強したい」、行かせてくれた保護者への感謝などの感想がありました。団員が感じたこと、学んだことの感想から、一人ひとりの頑張りや成長を、参加していただいた保護者の方にも、十分感じていただいたと思っています。今年度、宗像市の少年少女海外派遣研修使節団報告書は、後日、作成したものを改めて提出いたします。また、現状の課題として、今年度もニュージーランドからの訪問がないことや、事前研修の内容、あるいは、本研修の日程など見直すべきところがございます。今回、現地の学校の先生方とも、ニュージーランドで協議をしてきましたので、今年度の運営の現状や、課題も踏まえて、来年度以降もより良い事業になっていくように、継続できるように、改善していきたいと思っております。教育長はじめ、教育委員の皆さんに、お忙しいなか、結団式、出発式、解団式、研修報告会など、ご参加いただいたこと、この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

【井上委員長】 以上ですが、他に報告はございますか。なければ、次回は、10月22日火曜日、9時30分から301会議室にて開催します。長時間ありがとうございました。

平成25年10月22日

井上裕之

中岡政剛